

●オオムラサキ捕虫網設置作業見事に完成する 深田金田森島大釜大村有田小川寺村山村
例年この時期オオムラサキの羽化が開始されるのです。昨年夏の観察会でトラップを従来以上に充実させ、オオムラサキの成虫の確認を狙って、金田さんに 7 日連続しての観察をお願いしました。カナブンやカブト、ゲンジや大型のハチなどは確認できましたが、目的のオオムラサキは確認できませんでした。トラップによるおびき寄せは失敗に終わり、ここ数年思うような成果に到達できていませんでした。しかし年末冬の幼虫観察調査会ではエノキの落ち葉に潜んでいる幼虫を発見しています。確実にこのエノキ林に産卵していることは証明されているのです。我々の知らない時間に羽化し飛翔していったのだと思います。これまでのおびき寄せ方式ではなく、エノキをすっぽり網で覆う方法にしました。大きなエノキ(高さ約 4 m 幅 3 m 奥行き 3 m) をスッポリ覆うことはかなり大きな網が必要になります。計算では長さ 10 m × 8 m 以上の大きな網が最低必要になります。近くの店を訪ね歩いて最大幅が 2 m もので家庭菜園などでの防虫用しかありませんでした。これをつなぎ合わせて 10 m 四方の大風呂敷にすることは大変困難な作業が必要になりますので、すこしでも幅の広いものをと苦労しました。やっと J A で幅 4 m ものが見つかりました。これで作業時間が半分に短縮できます。次の難問は網のつなぎ合わせ方法です。糸にするか針金にするかなど、難問が次々出てきて試行錯誤を繰り返しました。かなり時間が必要なことは明白です。他にいい方法はないのか、随分悩みました。ここがこの作業の急所でした。設置する前日の夜まで縫う材料に悩んでいました。たまたまの書類を片付けていて紙を挟むゼムクリップを見ました。瞬間に網を縫うものはこのゼムクリップとひらめきました。これを使うと実に簡単に手早くまた誰もが簡単に作業が進みました。これで午前中に大半の作業が出来上がりました。大変大きな網(10 m × 12 m) が完成しました。休憩もせず、すぐに参加者全員が早く覆いかぶせるために思い思いに段取りにかかっていました。最初の作業開始の時はそれぞれに「こうだ」「あーだ」と発言が続きましたが、クライマックスになるとみんなが同じ方向に集中しはじめ、気持ちが一つになりました。声も作業初めの頃とは全く違って、完成を期待する喜びがはじけているようでした。みんなの心がこの作業を通じて一つになりました。完成は 11 時 50 分でした。全員で集合写真を撮り散会しました。皆さん足取り軽く帰路につかれたことと思いました。久しぶりにみんなでやり遂げた仕事でした。

●この日のために太田さんや金田さん森島さんなどが前日の金曜日に山城農協の資材部(大住明治乳業のとなり)に出掛けていただき網の受け取りをしていただきました。その足で教育棟で網を広げて、翌日の作業について調整を図り、必要な道具や材料の手配などスムーズに作業がはかどるように知恵を寄せていただきました。
何事も仕事をするには事前の準備検討が大切です。昔から「仕事は段取り八分」といわれてきました。事前の準備の大切さを語ったものです。また清潔整頓がされてこそいい仕事ができるとも語られています。遠回りになるようですが間違いのない仕事をするためにはこれも大切な言葉です。里山農園にも生かしたい言葉です。

●金曜日に普賢寺小学校から自然観察調査会に助言をお願いしたいとの連絡があって、22 日 9 時半から 4 年生の児童との地域観察に同行しました。

参加したのは金田さんと福井さん伊藤さんでそれぞれ質問に答えていただきました。子供たちは郊外に出ることはコロナウイルスの関係で久しぶりとのことで楽しみにされておられた様子でした。持参したカブトムシやクワガタに子供たちは大変興奮していました。

●30 日金曜日は、予定より一か月遅れで里山の会が植樹を実行します。

台風で巨木が倒れ昆虫の好む樹液が少なくなり、残っている樹木も 40 年を超える老木も多

くなっているのので若木を植樹してはとの意見から拾ったドングリでクヌギの木の植樹を行います。金田さんが苗を丹精込めて育てていただきました。設置した後しばらくは梅雨なので根付いてくれたらと思います。その後の夏の暑さに負けないで乗り越えてほしいと思っています。

●「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」4回の開催予定

先の週刊ニュース 830 号でお知らせしましたのが河川レンジャーの取組が全面的な中止とのことでした、しかし、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解消され、活動開始が可能となった関係で共同開催も可能ではないかと考えられます、これから細部の調整になります。うまくいけばご期待に添えられるかもしれません。小学校の夏休みの期間短縮となり日程が大変窮屈になっております。参加希望の皆さんは日程を確認の上申し込みをお願いします。現在のところ「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」は8月1日～8月10日に4回の開催を検討しています。今年の夏は熱中症に加えてコロナ対策もしなければならなくなりますので、主催者としてはこれまで以上の配慮が必要と考えられます。日程も集中するのでスタッフの皆さんは今から体調管理を備えていただきたいと思います。

●23日火曜日にジャガイモの収穫をおこないました。

今年の収穫は男爵、メイクイン合わせて65キロの収穫でした。

●ササユリは2株で3つの大輪を咲かせました

4つ目の開花を期待していましたが、激しい雨の影響で四つのそろって咲くことはできませんでした。金田さんが随分こまめに観察いただきましたが残念でした。楽しみは来年に見送らしましょう。きっと今年より大きな開花が見られることでしょう。

●11《研究目的》

本研究は、伝統的河川工法の実績がある木津川下流域において、設置点の河床地形・水理環境・水生動物群集などのモニタリング調査を行い、竹蛇籠水制や成牛の効果を経食堆積傾向の異なる地点で比較調査することにより、「伝統的河川工法が河床地形や滯筋を変える効果」と「河床の生息場や生物群集に及ぼす影響」を体系的に評価することを目的とする。また、河川環境改善に有効な場所条件や配置などを検証することによって、伝統的河川工法を河床地形管理に活用する手法の確立に寄与することを目的とする。

●12《一般研究の内容と期待される成果の概要》

一般研究では、竹蛇籠水制や聖牛が試験的にされている木津川玉水橋下流域において、同じ砂洲上で経食堆積傾向の異なる地点に複数基を増設し、伝統的河川工法が河床地形や滯筋を変える効果」や「河床の生息場や生物群集に及ぼす影響」を調査する。聖牛の設置地点に経食堆積傾向と対応した地形改変効果を比較分析することによって、伝統的河川工法が河床環境に与える効果を体系的に評価することができると期待される。また、これらの成果に基づいて、顕著な河岸経食が課題となっている20Kp流程において、砂洲上に側流路を維持する目的で伝統的河川工法の実事業への適用を計画・実施する。これらの地点の経年変化を継続的にモニタリング調査することによって、流木補足や植生発達などの副次的な環境改変効果なども含めた知見の集積が期待できる。また、透過型水制に関する既往研究では、設置個所の経食堆積傾向と地形改変効果の関係について必ずしも究明されていないため、本研究の成果は、一般の透過型水制の設置場所の選定方法としても活用できることが期待される。